



ロシア・サハリンのスキー事情

稚 内 佐 藤 秀 志

晴天には、日本最北端の地、宗谷岬から43kmに島影を確認する事が出来ますが、その島影こそ、かつて日本の統治時代の「樺太」であり、現在はロシア連邦政府サハリン州である。

1999年からは、日本船による稚内・コルサコフ定期航路が季節運航されております。

.....

近年のサハリンは、世界的なプロジェクトであったサハリン大陸棚石油・天然ガス開発により、ロシアの中でも屈指の地下資源開発の恩恵により、急成長な経済発展を成し遂げている地域です。

現在、サハリン州の人口は約50万人で、州都ユジノサハリンスク市（旧日本名：豊原）は、約18万人でその周辺地域の市を入れると約30万人以上の人口規模となります。

私は、仕事の関係で7年前からサハリンを頻繁に訪れておりますが、今から14年前に初めてサハリンへ渡航した時は、街全体の建物が全て茶色や灰色で、暗く寂しいイメージだったことを思い出します。しかし、ここ5年くらいは街並みもカラフルな外装の建物も見えるうちに増え、カフェやレストランが至る所にあり、大型複合商業施設には、映画館やボウリング場、売り場にはヨーロッパからありとあらゆるものが入ってきて、逆に、稚内にはないものがたくさんあるぐらいの街の変貌ぶりです。

さて、ユジノサハリンスク市の街から車で10分もかからない場所に（歩いていけるかも？）、かつて日本人が開発した「旭ヶ丘スキー場」に（現在：山の空気スキー場）サハリン州などにより、莫大な資金力でスキー場開発を行い7年前にオープンしております。



「山の空気」スキー場全景

ゲレンデには、近代的な8人乗りゴンドラ、6人乗り高速リフト、Tバーリフト等が完備され、今シーズンからは人工降雪機も完備され、万全な環境の中で、州民は勿論、ハバロフスクなどロシア極東からもスキーヤーが訪れている状況です。

.....

サハリン州立アルペンスキー学校校長のブコフ氏によると、サハリン州内の各市にアルペンスキー学校があり、低学年から高学年までの約800名の生徒が在籍して、活動しているとのこと。ロシアの場合、午前中は普通の勉学に励み、午後からスポーツや文化・芸術など自分の好きな学科を選考して極める、完全なるピラミッド型のビクトリー・システム化がなされております。

また、子供達の用具等は、国などの予算からスキーは与えられるようですが、その他の用具は各自で用意するようです。

しかし、国内・州内で強くなると、選手のスキーは勿論ですが、全てのスキー用具が国など